

研究所だより

第454号
2023年 3月 8日
発行：土佐清水市教育研究所
TEL 82-3015

“ 菜の花畠（ばたけ）に 入り日薄れ

見わたす山の端（は） 霞（かすみ）ふかし

春風そよぶく 空を見れば

夕月（ゆうづき）かかりて におい淡（あわ）し ”

『 おぼろづきよ 』 1914（大正3）年 日本の唱歌



“一月は行く、二月は逃げる、三月は去る”

早いもので今年度も後わずかとなりました。暦の上では、「啓蟄（土中の虫が地面にはい出てくる季節）」が過ぎ、庭先や野山では梅や桃の花が咲きほころび、春を感じさせる頃となってきました。

季節の変わり目は体調を崩しやすくなりますので要注意です。13日からはマスクの着用が個人の判断に委ねられますが、引き続き基本的な感染防止対策「マスク（咳エチケット）、手洗い、うがい、3密回避、体調管理」に留意しながら過ごしましょう。

真正の構成的グループエンカウンターによる学級づくり⑫ (指導と評価 2023.3)

〔 学級おさめに向けて 〕

片野田亜沙子教諭（大阪市立磯路小学校）
米田 薫教授（大阪成蹊大学）

1 一年間の学級づくりの総決算

いよいよ学年末、3月はこれまでの学級の経営の総決算の時期である。子どもたちにとっては、この一年間の歩みを確かめ、次年度の新たな一歩への足固めの大事な時期である。また、共に過ごした仲間との残された大切な時間を感じる時でもある。一方、担任ならば自分の学級経営を振り返るというよりも突きつけられる厳しい時期であろう。

これまで紹介してきた「真正の構成的グループエンカウンター」を実施してきた学級であれば、子どもたちにとって居心地のよい学級が熟成されていることだろう。多様な個性を持った子どもたちが誰一人取り残されることなくその子のままでいられる学級、そのような民主的で支持的な学級の成長を経験した仲間が筆者の周りには多い。そのような学級は、これまで幾度も述べてきたように、気持ちを分かち合うシェアリングを経験してきたからこそ受容的雰囲気ができ、集団の心理的安全性が高まるのである。また、心理的安全性の高まった学級で過ごす児童は、全般的に学力も高まる。

今回は、子どもも教師も一年間の成長を振り返ることができ、最後を締めくくるにふさわしい「真正の構成的グループエンカウンター」を紹介したい。

2 学年最後のエクササイズ「別れの花束」

目的：三学期末の別れを前に、共に過ごした仲間へ感謝の思いなどの今の気持ちを伝え合う。

（自他受容）

準備：メッセージを書く付箋紙（ハート型等）を必要数（書かせたい人数×子ども数）、付箋紙を貼る画用紙、画用紙をえりに止める洗濯ばさみ

インストラクション

「この一年、皆さんはそれぞれに頑張ってきました。そして、みんながそれぞれ関わり合って過ごしてきました。友だちに支えてもらったこと、うれしかったこと、友だちの良さも思い出してみましょう。今から別れのメッセージを書き、花束にかえて贈りましょう。」

エクササイズ

「メッセージを書く用紙を配ります。もらった友だちが喜ぶ言葉を書きましょう。まず、同じ班の人に書き、残った時間でそれ以外の人に書きましょう。時間は、〇分間です。」

「はい、そこまでです。では、書いてもらったメッセージを貼ってもらう用紙と洗濯ばさみを配ります。配られた上着の背中側のえりに付けてください。」

「では、メッセージカードを心を込めて背中中の画用紙に貼ってあげましょう。貼れたら席に戻ってください。まだ、見てはいけません。」

「では、画用紙を外し、静かに読みましょう。」

シェアリング

「メッセージを書いてどんな気持ちでしたか。『悔しい、もっといろんな人に書きたかった』とか『焦った、意外に書けなかった』という人がいるかもしれません。『うれしい、これからも頑張る』とか『悲しい、もっといろんな人から書いてほしかった』という人がいるかもしれません。グループで話し合ひましょう。」と分かち合い、全体シェアリングへとつなげる。

留意点

- 必ず全員が複数の人からもらえるように指示する。
 - メッセージを書きにくい子どもには、個別に声かけする。クラス全体に、数日前から考えておくように指示してもよい。
 - 書く時間を設定し、その間は何人でも書いてよいことを伝える。
 - 画用紙に花束の絵を印刷しておくことよい。
- このエクササイズを実施すると、何枚も書き続け時間が足りないと訴える子どもが必ず出てくる。それほどまで感謝の思いが溢れ出す時間となる。最後だからこそ、より入念な準備と配慮は欠かせない。



3 教育カウンセリングを学び続ける

「真正の構成的グループエンカウンター」は学級づくりの万能薬ではない。しかし教師として、これ無しの学級経営は考えられない。

それはなぜか。確実に子どもが変容するからだ。自他理解・自他受容・自己表現・自己主張・感受性の促進・信頼体験・役割遂行、これらのエクササイズの目的は自分らしく人生を謳歌するための必要条件である。それは教師も同じである。「自分のことがわかる程度にしか他者のことはわからない」、子どもを理解するには、まず教師が自己理解を深め、自身を受け止めことである。それには研鑽が欠かせない。それは、同士がいるからこそ続けられることである。子どもたちの健やかな成長を育むために、仲間になれることを切に願っている。

（片野田亜沙子）

4 過去を振り返り、未来に向かって生きる

先日、小6の4クラスにお邪魔して、キャリアに関わる心理教育をさせてもらった。そこで「皆は今、空中ブランコでいえば、つかんでいたブランコから手を離し、次のブランコをつかむために空中にいる時間の中にいます。この時期に、これまでを振り返り、明日を見据えて生きるのが大切」という話をした。

よいクラスで過ごしていると別れが辛くなる。今回片野田が紹介した「別れの花束」は、これまでの学級での生活を温かい気持ちで振り返る、この時期にぴったりのエンカウンターである。

「人生は愛するものとの別れの連続で成り立っている」國分先生に教わったとき、「そうだよな」と感じ入ったのを思い出す。別れは人生で超えるべき課題である。「別れの花束」は、人生の節目を自覚し、一緒に過ごした日々を思いをはせ、未来に進む活力を与えてくれる。ただしこれは、一年間、クラスの成長に真摯に取り組んだ教員にしかできない取組と言える。もとより、心ある実践者は学級おさめの別れの花束をイメージして一年間を過ごしている。

5 クラス文化を創造する真正のエンカウンター

一年間のまとめとして実践のポイントを2つあげるなら、①リーダーが目的をしっかりと意識していること、②シェアリングの時間を確保して子どもたちの感情交流を十分に図ることである。

また、実施上の留意点として、エンカウンターは予防・開発的カウンセリングなので、本来は、クラスで問題が噴出してから行うべきものではない。もし、それでも実施するときは、力のある「公認リーダー」に指導を仰ぎながら実施したい。いうまでもないが、年度当初から継続してエンカウンターをしていれば、子どもたちの間に絆が生まれ、クラスに温かいまなざしが増え、副次的な効果として、いじめや不登校の抑止になる。

6 はじめよう 弛まず続けよう

社会の孤立化が進行する現在、学校もその例外ではない。他者との温かい結びつきを感じて子どもたちが笑顔になれる学級・学校づくりに貢献するものとして、一年間、研究会の仲間と連載を続けてきた。エンカウターのすばらしさと、実践することが難しいが故の意義が、多少なりともお伝えできたと思えば幸いである。共に進みましょう。

参考文献：國分康孝・國分久子編集
『構成的グループエンカウンター事典』図書文化 2004年

～第5回教研推進委員会～

2月28日（火）に第6回教研推進委員会を開催しました。本年度の教研活動の総括と来年度に向けての課題・申し送り事項等について協議しました。

*各委員並びに教職員から多くの意見をいただきました。ありがとうございました。

1. 2022年度の教研活動の総括（抜粋）

(1) 年間の取組の反省

①教研推進委員会

- ・年間の取組について、企画・運営ができた。
- ・日程、時間設定ともよかった。
- ・推進委員会の開催について（回数、開催方法等）



②教研活動

- ・各部会、計画的に取り組むことができた。
- ・実践交流、情報交換は自己の実践へ生かすことができる。個々のスキルアップにもつながる。
- ・組織教研開会行事の見直しが必要ではないか。（部会研修時間の確保のため）

(2) 来年度に向けての課題・申し送り事項

①教研推進委員会

- ・議題が確認事項だけの場合は、リモートかメール等で済ませる。
- ・会の中で次の会の持ち方（リモート・メール）について確認する。
- ・令和6年度を見据えて、教研の持ち方（部会構成等）について協議していく。

②教研活動

- ・このままでよい。
- ・各部会で前年度の取組を振り返り、それを基に研究テーマや研修計画・内容を決める。

③その他

・組織教研について

要望：「開催要項・名簿・レジュメ・前年度の部会実績等を1冊の資料として配付してほしい」
*来年度から事務局で準備することです承される。

2. 2023年度 第73次教研活動（部会構成・組織・一日・半日教研等）について

(1) 組織教研： 4月19日（水）15：10～ 会場：清水中学校

○部会構成（9部会）

研究部会：国語、社会、算数・数学、理科、外国語、情報教育、教育相談

専門部会：養護部会、事務部会

○成立条件：「3校以上の部員を必要とする」

(2) 一日教研： 8月 2日（水） 会場：中央公民館・清水小・清水中

午前：開会行事、講演

講演 講師 塩田 真吾 准教授（静岡大学教育学部）

演題（仮）「一人一台端末環境における情報モラル教育」

午後：部会研修

(3) 半日教研：11月 1日（水） 会場：各部会各会場

(4) 総括教研：開催の方法については各部会で計画する

*各部会・研究協力校・各研究会・研究主任等代表者会については、資料の配付のみとする。

3. 2023年度教研推進委員会について

・推進委員：小（6名）、中学校（1名）、校長会代表（1名）、指導主事（1名）、研究員（2名）

*推進委員長：校長会代表 副委員長：推進委員会で互選

4. その他

(1) 2023年度 第1回教研推進委員会について

・日時： 4月11日（火）16：00～

・会場：教育センター

◇お知らせ◇

○平和・人権・道徳教育用DVD・特別支援教育図書を紹介

①「アゲハがとんだ」1945・3・10 東京大空襲

②「手紙」

③「毎日がつらい気持ちわかりますか」ゆるせない！ネットいじめ

④「シリーズ映像で見る人権の歴史」第7巻水平社を立ち上げた人々

⑤ 特別支援教育 はじめのいっぽ！国語のじかん

⑥ 学びにくさのある子への読み書き支援 いま目の前にいる子の「わかった！」を目指して

